

第5回 北区新庁舎新築基本設計専門家会議 概要

- 日時 令和8年1月14日(水) 16:00~18:30
- 場所 北区役所第一庁舎3階庁議室
- 次第
 - 1 開会
 - 2 議事
 - (1) 新庁舎整備の現状報告について
 - (2) デザイン部会について
 - (3) 中間報告説明会の結果報告について
 - (4) 吹抜の検討について
 - 3 閉会

●会議概要

1 開会

2 議事

(1) 新庁舎整備の現状報告について

○事務局より現在の進捗状況を説明。

- ・現在の進捗状況を共有。

(2) デザイン部会について

○事務局、設計者及び拠点まちづくり担当課よりデザイン等検討部会の内容について説明。

- ・国立印刷局の敷地に、「お札と切手の博物館」が今後計画されるため、博物館へのアクセスを検討する必要がある。
- ・北東側からデッキへの動線は、平常時および水害時の観点からも検討する必要がある。
- ・低層部にある「ハウス」や庁舎正面入口にある庇はどのような機能・役割があるのか。
 - 「ハウス」は低層部の室内外に展開している。この「ハウス」デザインは新庁舎だけでなく、民間街区のランドスケープにも共通のデザインとして展開し、統一感を持たせる方向で協議している。
 - 「ハウス」の表現が基壇のようにも見える。デザインはこれからとのことなので、展開を楽しみにしている。
 - これからの発展を期待している。

(3) 中間報告説明会の結果報告について

○事務局より中間報告説明会の結果報告について説明。

(4) 吹抜の検討について

○事務局、設計者より吹抜に対する区民の反応や、吹抜のコンセプトや機能等の整理、検討資料を説明。

- ・一般的に何かを変えようとするときに反対意見は多くなる。反対意見だけではなく、賛成意見にもフォーカスして伝えていくべきでは。
- ・吹抜の存在意義をコスト面だけではなく、「職員に感動を与える職場」を作っていく、というポテンシャルの面でも考えていく必要があると感じる。職場環境を整えることで、作業効率が約1.3倍になるという論文もある。そのため、建設コストは増える可能性もあるが、職場環境を整えることで幸福感を与え、作業効率が上がり、結果的に人件費等が削減できるという点を考慮すれば、将来的な投資になると考えている。
- ・コスト面を説明した方が理解されると思うが、空間にはコストだけでは説明ができないものがあると感じる。吹抜をなくすと開かれた空間ではなくなる。
- ・相応の費用を要するものの、吹抜等のコミュニケーション空間が区民にとってどれほどの利益をもたらすか、その有用性を十分に説くべき。例えば、自然環境や災害時の利用想定等において、この建物には力があることを説明すればいいか。
- 委員皆様からの意見を踏まえ、設計及び説明の方法等は再度検討を行う。
- 金額以外では説明できない、職員と区民の幸せを説明する必要がある。職員の幸せが、結果的に区民の幸せになるというプロセスを検討すること。
- ・吹抜のある庁舎が区の財産となり、将来的な人材確保にも繋がると考える。一方で区民目線ではコストの懸念があることも事実。
- ・中間報告説明会では現在のプランを肯定的にとらえている人もいると感じた。北とぴあとは違う区民の居場所があることの良さを伝えていきたいと考えている。
- ・プロポ時の提案において、ジオガーデンを利用して災害時に安全に避難でき、停電時でも吹抜があることで、安心して滞在できるという話があったように、一体的に様々なことを考えている庁舎であるという説明を再度考えるべき。
- ・区民に寄り添って職員が仕事をしていくために、区民と職員の距離が縮まるような庁舎を作りたいという説明もできる。
- ・設計に余裕を持つことの価値はなかなか理解されにくいのが、非常時などいざという時に効果を発揮することがある。投資として必要だと感じる。
- 非常時に備えて、冗長性を持たせた設計が望ましい。
- ・防災の丘、飛鳥山をまちなかにつなぐといった根本的なことについて区民に十分な説明ができていなかった。
- ・また、吹抜が区民に有用性があることの説明が足りておらず、職員間のコミュニケーションの話を中心にしていた。区民同士あるいは区民と職員の語らいや出会いなどのメリットがあることを説明していきたい。